

小児センターの進捗状況

1 2025年度の取組結果及び評価と2026年度の主な取組

2025年度の取組結果及び評価	2026年度の主な取組（重点事項）
<p>基本方針1 県内の中核機関としての役割・機能の発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> 重症患者相談システムについて、県内の救命救急センター及び愛知県・岐阜県・三重県内病院小児科に対して周知のための啓発文書を送付したほか、年2回の県内4大学と第二日赤との振り返り会、不定期の相談元医療機関との症例検討会、月1回のwebセミナーを開催し、利用促進を図った。(年間見込み利用件数188件(前年比+27件))(1-1) PICU及びNICUが高稼働となる中、後方病床を柔軟に活用することで対応した。(1-1) 心臓カテーテル件数は年間328件(カテーテル治療35%)の見込みで目標数(360件)には到達できなかったが、例年並みの実績を残した。(1-3) センターの各診療科の総力を結集し、胎児診断及び出生直後からの治療介入を行った。(12月末時点胎児診断件数130件(前年比+32件))(1-3) 補助人工心臓を用いた移植待機患者が新たに2名入院している。(1-3) 	<ul style="list-style-type: none"> 重症患者相談システムについて、県内の救命救急センター及び、愛知県・岐阜県・三重県内病院小児科に対して再度周知を行うとともに、県内4大学と第二日赤との振り返り会、相談元医療機関との症例検討会、Webセミナー等を開催し、当該システムの利用促進を図る。(1-1)。 PICU、NICU、後方一般病棟ともに稼働を上げる運用を検討・実行する。(1-1) 心臓カテーテル件数350件(カテ治療40%)を目標とするとともに、各診療科の総力を結集し、胎児診断および出生直後から治療介入できる体制をより一層強化する。(1-3) ECMO、補助人工心臓を用いた重症心不全治療体制を強化整備する。(1-3) アブレーション治療を行い、不整脈治療を強化する。(1-3)
<p>基本方針2 高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児特有の問題を含む終末期医療への取組として、ACP(アドバンス・ケア・プランニング=人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取組)の小児版(PPS-C&A)を稼働させ、現在、29名を対象患者としてフォローしている。同取組は病院機能評価でも高く評価された。(2-3) 	<ul style="list-style-type: none"> PPSは患者本人と家族を含めた多職種での取り組みであり、医療者のみでは不十分であるため、今後は患者および家族がカンファレンスに参加するよう促していく。(2-3)
<p>基本方針3 県内の医療や研究の中心となる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内CRCが治験対象患者に積極的にスクリーニングを行った結果、臨床治験件数は増加し、受託件数の目標を達成した。新規治験受託件数については、治験の実施経験が浅い医師が治験を受託できなかったケースがあったために、目標を下回った。3月に治験施設支援機関(SMO)による治験の実施経験が浅い医師向けの勉強会を開催し、より幅広い診療科で治験の実施が行える体制整備に努めた。(3-3) 	<ul style="list-style-type: none"> 院内CRCや治験支援室が積極的に治験の実施経験が浅い医師等のサポートを行い、治験受託の増加を図る。(3-3) 小児治験ネットワークが開催する研修会や勉強会に治験支援室の薬剤師やCRCを積極的に参加させ、小児治験ネットワークからの治験の受託数を増加させる。(3-3) 治験支援室長が自ら治験受託数の多いこども病院を訪問し、治験を増やすための組織体制や治験受託のためのノウハウを習得する。(3-3)
<p>基本方針4 取組の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> 公式LINEを活用した時間外LINE相談を実施し、患者家族及び子育て中の県民へ育児情報や親子の健康に関する情報発信(12月末時点347件)や、県民公開講座の開催案内等の情報発信(12月末時点13件)など、積極的な広報を行った。(4-4) 連携医療機関を対象としたあいち小児医療懇話会を3回開催した。(4-4) 1月にイオンモール大高で、親子で楽しむ体験イベント「わくわく!キッズドクター体験&子育て応援フェスタ」を開催した。(来場者数187人)(4-4) 	<ul style="list-style-type: none"> 公式LINEなどを活用し、情報提供やイベントの案内、患者家族及び子育て中の県民へ育児情報や親子の健康に関する情報等を発信する。(4-4) 継続してあいち小児医療懇話会を年複数回開催し、連携医療機関に向けた情報発信を行う。(4-4)
<p>基本方針5 持続可能な安定した経営基盤の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 体制強化を図った早期離床リハビリテーション加算、体外式膜型人工肺管理料ともに算定を継続し、診療報酬の確保に努めた。早期離床リハビリテーション加算については、毎月100件程度の実績であった。(5-1) 補助人工心臓を装着する患者の受け入れ体制のPRに努めた結果、2025年3月と4月に、それぞれ1件の新規症例を受け入れることができた。(5-3) 診療の効率化及び、患者の利便性向上を図るため、オンライン診療枠を増加したことにより、12月までに241件のオンライン診療を実施し、前年度(年間209件)を上回る実績を達成することができた。(5-4) 	<ul style="list-style-type: none"> 早期離床リハビリテーション加算及び、体外式膜型人工肺管理料の算定など、引き続き診療報酬の確保に努める。(5-1) 補助人工心臓患者について、治療中の症例を適切に管理する。(5-3) 引き続き、全国の小児循環器科・心臓外科の設置された医療機関に対して、当センターの取り組みを発信するとともに、関連学会などに出席し、当センターが広く認知されるように働きかける。(5-3) 引き続き診療科のニーズに応じたオンライン診療枠の設定を行い、診療の効率化及び患者の利便性向上に努める。(5-4)

2 収益的収支見込（小児センター）

（単位：億円）

		2024 決算	2025			2026 計画
			計画	決算見込	決算見込-計画	
収 益	入院収益	60.9	67.6	62.3	△5.3	68.4
	外来収益	21.5	24.8	23.6	△1.2	24.7
	一般会計負担金	26.2	26.4	27.7	1.3	26.1
	その他収益	9.9	11.2	11.9	0.7	11.4
	収益 計	118.5	130.0	125.5	△4.5	130.6
費 用	給与費	63.1	61.9	64.7	2.8	61.9
	材料費	29.4	32.5	31.0	△1.5	33.2
	その他費用	30.1	30.8	29.5	△1.3	30.6
	費用 計	122.6	125.2	125.2	0	125.7
経常損益		△4.1	4.8	0.3	△4.5	4.9
経常収支比率		96.7%	103.8%	100.2%	△3.6%	103.9%

<患者数、診療単価の状況>

		2024 決算	2025			2026 計画
			計画	決算見込	決算見込-計画	
入 院	1日平均患者数	135.8人	138.0人	131.2人	△6.8人	139.0人
	1人1日平均診療単価	122,884円	134,283円	130,058円	△4,225円	134,911円
外 来	1日平均患者数	344.5人	408.0人	358.3人	△49.7人	408.0人
	1人1日平均診療単価	25,683円	25,070円	27,175円	2,105円	25,071円

<分析結果>

○収益増減理由

入院 収益	患者数	・手術件数の増加を目的とした手術枠の再編成などの取組により新入院患者数は計画を達成したものの、平均在院日数が計画に満たなかったことから、患者数が計画値に届かなかった。
	診療単価	・診療単価の高い患者（PICU、NICU）について、患者数が前年度より増加したものの、計画値を下回ったこと等により、計画値に届かなかった。
外来 収益	患者数	・外来臨時診察枠の活用の周知徹底ができなかったこと等により、患者数が計画値に届かなかった。
	診療単価	・高額医薬品の使用数量の増加に伴い、計画値を上回った。
その他収益		・国庫補助金（医療機関における賃上げ・物価上昇支援事業）の受け入れにより、計画値を上回った。

○費用の増減理由

給与費	・給与改定に伴う増加により、計画値を上回った。
材料費	・患者数が計画値に達していないことに加え、診療材料の価格交渉及び安価な同種品への切替、品目集約を行ったことにより、計画値を下回った。
その他費用	・受託研究に係る収益の計画未達に伴い、研究研修費が計画を下回った。

<2026年度の収支改善の取組>

<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な病床運営と収入増のため、午前中退院を徹底するよう働きかける。 ・麻酔科の主導により、利用率の低い診療科の手術枠を減らし、手術待機期間の長い診療科の手術枠を増やすなど、手術枠の再編を継続する。 ・一般病棟の後方病床としての対応力を強化し、PICU 及び NICU の高稼働を維持する。 ・ベンチマーク分析等の活用により材料費の価格交渉をさらに強化し、費用の削減を図る。 ・診療報酬改定に対応し、新たな施設基準取得と算定拡大を図り、収益を確保する。
